

Q：歯肉圧排除について教えてください。

A：

<歯肉圧排が必要な理由>

適合のよい最終補綴装置を作製するために、マージンを明瞭にし、マージンより下の立ち上がりの形態を記録する必要がある。印象時に一時的に歯肉を排除する方法として、現在では圧排糸と歯肉圧排材料を用いた方法が主流となっている。

<歯肉圧排材料の種類>

歯肉圧排材料には様々な種類の薬剤が使用されており、主なものとしてエピネフリン、塩化アルミニウム、硫酸アルミニウム、硫酸アルミニウムカリウム、硫酸第二鉄などがある。現在では様々な報告により、エピネフリンの使用は推奨できないと考えられている。近年では圧排糸を用いず、塩化アルミニウムとカオリンなどで組成された薬剤を使用する方法が紹介されている。ペースト状、泡状、ゲル状のものがおり、滲出液を吸収して膨張する仕組みになっており圧排糸ほど軟組織に圧力をかけることはできないが、歯周組織へのダメージは少なく、歯肉退縮などのリスクを回避することができる。

<歯肉圧排する際の注意点・方法>

負荷が大きすぎると、歯肉溝部の上皮だけでなく、上皮付着、結合組織付着にもダメージを与える可能性があるため、圧排のよる負荷は最小限とすべきである。

圧排糸を用いる方法では、歯肉の状態や出血、滲出液の有無によりシングルコードテクニックもしくはダブルコードテクニックを選択する必要がある。少数歯で出血がなく、マージンが浅い場合にはシングルコードテクニックによる圧排でも十分に明瞭な印象を得ることができ、必ずしもダブルコードテクニックを使用する必要はないと考えられる。逆に複数本の印象や深いマージンの場合には、出血や滲出液を防ぐために歯肉圧排材料が浸潤された細い圧排糸を最初に設定するダブルコードテクニックが有効であるとされている。

[参考文献]

著：須田剛義 土屋嘉都彦 木戸淳太 補綴・咬合の迷信と真実 EBD を採り入れた治療のアート&サイエンス：クインテッセンス出版株式会社